

設計演習 II

06

2. 地域の図書館—地域コミュニティの場づくり

開講年次：学部2回生 後期

[担当教員]

黒田龍二(教授) 中江研(准教授) 栗山尚子(助教)

[Teaching Assistant]

河本淳史(A61) 花岡 航(A62) 中川寛之(A62)

[OB ゲスト講師]

坂口太志(AC5、東急設計コンサルタンツ)

三谷帯介(AC8、鹿島建設)

■演習のねらい

- (1) 公共図書館のネットワークと役割分担, 図書館の機能, 図書館建築の機能・空間構成を理解すること。
- (2) 施設が立地する地域の歴史, 空間的・社会的特徴を把握し, 地域コミュニティ施設のあり方を考えること。
- (3) 以上を踏まえて, 地域コミュニティ施設としての図書館の望ましい空間を提案すること。

■計画建物の概要

- (1) 延床面積 1,600 m²前後
(±10%程度の増減は可, ピロティ, 庇, バルコニー, 屋外階段等は面積に参入しなくてよい。)
- 注意: 敷地 I, II はともに容積率 200%の地区で 3 km²以上の敷地面積があるが, 本課題では上記の延べ床面積とする。

- (2) RC造, 鉄骨造, または木造(準耐火建築物)

- (3) 階数/複数階(平屋建ては不可)

■敷地 I

阪急六甲駅南側, 六甲八幡神社境内に隣接する敷地。
敷地面積 約 3,230 m²
第一種中高層住居専用地域/建蔽率 60%, 積率 200%



■敷地 II

阪神新在家駅南側, 新在家南公園の北側の敷地。
敷地面積 約 3,103 m²
準工業地域/建蔽率 60%, 容積率 200%



■提出図面・用紙

- (1) 所要図面
配置図 1/500 建物本体については屋根伏図で示すこと。
各階平面図 1/100 1階平面図には外部空間の計画を明示のこと。
立面図 1/100 2面以上。
断面図 1/100 設計意図のわかる断面を1面以上。
透視図(必須) 1葉以上 図面にはりこむなどして提出図面のサイズは統一
模型写真(必須) 1葉以上 同上
※断面図、透視図、模型写真は設計の意図が十分に伝わる部分を選択して選ぶこと
- (2) 用紙: A1ケント紙あるいは同等の紙(プレゼンテーションの工夫として色つきの紙でもよい)
鉛筆, インキング等の仕上げ自由。
模型写真の貼込みなどは可とするが, 図面一枚全部をプリンタ出力の場合, 貼り合わせは不可。A1一枚ものとして出力のこと。

都市の空隙

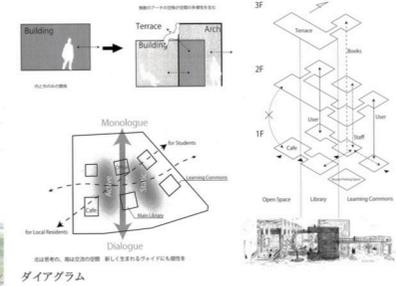
小林 諒

ランドマークとなる建築」をコンセプトに設計。

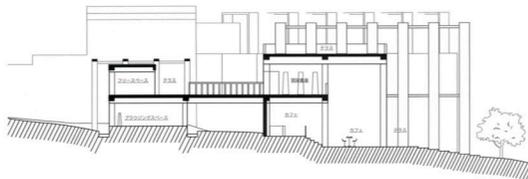
巨大で無機質なコンクリートの建築は、それを取り囲む木々と調和し、神社という特異な空間とも呼応することで、様々な空間や人々の隙間としての個性を与えられる。



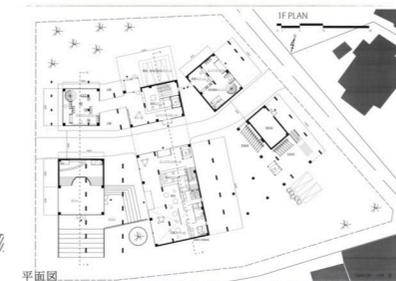
外観パース



ダイアグラム



断面図



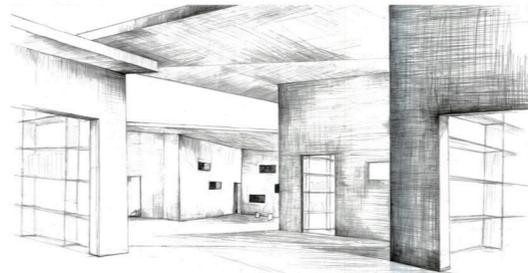
平面図

検索と散策

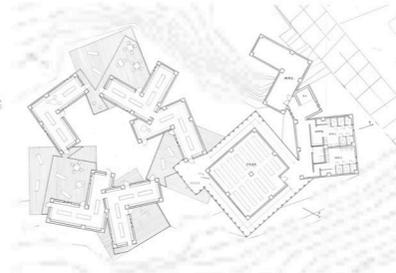
穴井 万智

散策を楽しむ図書館を計画した。

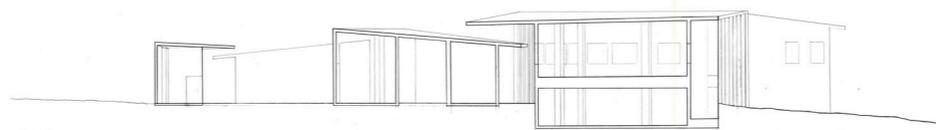
ずらして配置したL字型の開架書庫がいくつも動線のパターンをつくる。片流れの屋根が作る軒下の空間と、L字型を繋ぐように正方形をずらしたテラスで、書庫のあいだに閲覧室をつくる。



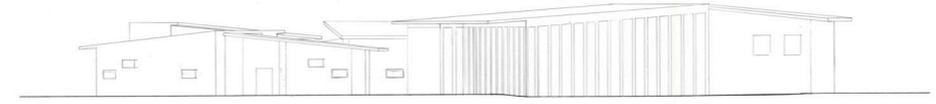
内観パース



平面図



断面図

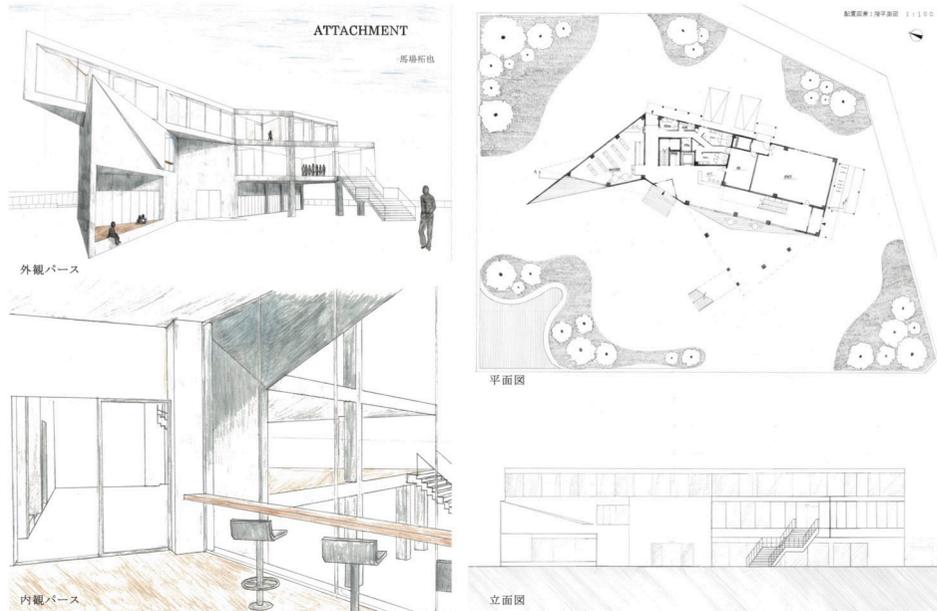


立面図

ATTACHMENT

馬場拓也

この敷地は周辺を幹線道路に挟まれ、またそれが視覚的にも感じられどこか寂しい場所である。
今回図書館を設計するにあたって地域の人々のアイデンティティとなるような心に根付き、愛着の生まれる図書館を設計したい。



空の見える図書館

竹内佑輝

周りを建物に囲まれた土地で上に開いた図書館を設計した。二階から四階まで続く吹き抜けを中央に作り、建物を二つの棟に分け空が見える様にしてある。二つの棟の間を複数の橋で繋ぎ行き来を可能にした。

